

1 本年度の学校評価をふりかえって

創立から四半世紀を迎えた今年度は、「ことばは心～心を開き、ことばでつなぐ」を重点に据えた教育活動の工夫改善に努め、学校教育目標の具現化を目指してきた。教職員の協働体制を強化し、健やかな心と体の育成、確かな学びを育む学習指導の充実、学校行事等の開催や多彩なボランティア活動を通じた地域や保護者との連携、豊かな人間性を育む道德教育や自分の生き方を追求するキャリア教育への取組等、地域に開かれた学校を推進するとともに、よりよい学校教育活動につなげるために、新たな教育課程を模索する積み重ねであった。今後も保護者や地域の理解と協力を得ながら笑顔あふれる学校づくりを継続していきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	豊かな心とたくましさを育む教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 心を開き、ことばでつなぐ合う子どもを目指して教育活動に取り組み、地域を学びのフィールドに体験的活動を重ねてきた。多様な人々と関わり、共感的な温かさにふれ、周囲を思いやる心が育っている。ことばを大切にしたい心の交流を継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 良好な人間関係を築きながら自他の生命を尊重し、共にたくましく生きようとする心の成長を促すためには、日常言語の大切さを自覚した生活の推進に努め、家庭や地域社会との連携を深めた道德教育やキャリア教育の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ことばを大切にし、心を開くことで絆が深まり、互いの信頼が生まれる。継続実践を通して、課題に正面から向き合ったり、関わる人々を大切にしたりするなど気概溢れる子どもの育成を期待する。
	学力向上に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して、思考を深める授業づくりに取り組み、一人一人の考えを基に集団で学び合い、筋道を立てて表現する力が身に付いてきた。 基本的学習習慣の定着が、一人一人の基礎的な学力の習熟とともに、読書への関心の高まりにつながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを明確に提示し、思考力を育む学習過程の工夫等について研修を重ね、授業における全校共通実践の日常化に努める。 “手が届く所に本がある”環境整備を進め、本に親しみ、学習に活用する活動等の情報発信を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個の考えを受けながら根拠を明らかにする活動は、広い視野で考える思考力を育むことができる。子どもの目線による言葉掛けや意欲を刺激する手立て、分かりやすい教材の工夫等が求められる。
生徒指導	互いに心が通い合う集団づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 適切な目標設定と振り返りを保障し、子どもの主体的な活動や達成感を味わう経験につなげることができた。互いに認め合い、高め合う気風が各学年に広がっている。 「いじめ防止基本方針」を見直し、子どもが個性を發揮し、楽しい学校生活を過ごすことができるように努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の自己存在感や自己有用感を育む各学年の実践について情報交換し、異学年交流や児童委員会活動を通して、全校に取組を浸透させる工夫を図る。 「いじめは常に起こり得る」という危機意識をもち続け、多面的に子ども理解を深め未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流は双方の思いやりの心を育み、自発的な挨拶や上級生が下級生の面倒をみる姿に感心する。子ども同士の関わり中で言葉の乱れが気になる場面があり、家庭との連携を強化し、改善方策について検討したい。
家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携を重視した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 御所野地区の特色を学習に生かし、米作りや近隣施設を活用した活動を通して、子どもたちは自然や人々の温かさに触れ、ふるさとの素晴らしさを実感することができた。 秋田市防災訓練に参加し、幼稚園との合同避難訓練や学年の発達段階に応じた防災体験を地域の方々に見守られながら実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> “ふるさと御所野”に学ぶ体験を系統的に積み重ねるために、各教科等の年間指導計画を見直し、豊かな自然や地域の人材等を計画的に学習活動に取り入れる。 子どもの安全安心を保障するために、家庭や地域社会との連携を一層深めて、「自分の命は自分で守る」という意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通指導や運動会等の学校行事を、地域の方々や保護者、教職員が協力して組織的に実施している様子から連携が十分に図られていることがうかがえる。地域から温かく見守られていることを子どもたちにも繰り返し伝えることが必要である。
学校間連携	地域の幼稚園や保育園、中学校との校種間連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校種間の連携を図り、一体となって地域の子どもの成長を支援する協力体制が整い、期待を膨らませて就学、進学できるように努めた。 定期的に小中教職員が情報交換し、義務教育9年間を見通した指導計画の改善に取り組み、継続実践に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今までの交流を振り返り課題を共有するとともに、各々の立場で目指す子ども像を明らかにし、自己実現できる取組を工夫する。 学習や生活に関する指導計画を子どもの実態に応じて改善し、連続性のある学校教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校種間連携を活性化させるため、互いに交換したい情報やともに改善を図りたい案件を事前に確認することにより、打合せから実践まで焦点化することができ、充実した取組につながっている。